

④ 同僚間でのサポート体制に関すること

【小・中学校】

- ・出張や年休がとりやすいように、教務主任が時間割を工夫したり、補欠授業計画を立てたりして、必ず職員が学級につくようにした。また、給食当番指導を学級担任以外で行い、学級担任の負担を軽減した。
- ・部活動は正副顧問制をしっかりとるようにし、正顧問ばかりではなく、副顧問が指導する体制とした。
- ・生徒指導に関して悩みを抱える職員がいた場合、臨時に生徒指導対策会議を開催し、対応を複数で協議するシステムを構築した。
- ・指導教諭が中心となり、主に経験の少ない職員を対象とした自主的な研修会を立ち上げ、アットホームな雰囲気の中で研修を行うことで、自身の指導力向上を図ると共に、職員間のつながりを深めることができた。

【県立学校】

- ・職員朝礼プリントに職員の個人的話題をコラム的に取り上げ、職員関係の円滑化を図った。
- ・生徒指導などにおいて、スピード感をもって関係職員間で会議を重ね、情報を共有し共通理解を図り、校長の方針に沿って組織的に対応することができた。
- ・不登校傾向生徒に対する指導体制について、当該学級担任の負担を軽減するため、全職員が当該生徒の情報をタイムリーに共有できるシステムをつくとともに、学年主任・学級副担任・学年所属職員等によるサポート体制を整理した。
- ・教師自身が学習指導や進路指導、生徒指導に悩んだときに気楽に相談できるように内容毎に担当窓口を設置した。これにより、教師が問題を抱え込むことがなく、問題を組織として受け止め解決方法を模索できる体制ができた。